

新病院開院に向けた抱負

「看護部のメッセージ」

新病院の開院に向けた宍粟総合病院スタッフの抱負を紹介します。
今月は、看護部(総括部門とそれぞれの病棟など)からのメッセージです。



患者に寄り添い、心温まる看護を



看護部(総括部門)

看護部は、看護師、助産師及び看護補助員あわせて約180人で構成する病院組織最大の部門です。看護部の平均年齢は42歳、当院平均経験年数は18.5年であり、20代から60代の看護師たちが活躍しています。

看護部の役割は、病院理念に基づき、看護の対象となる患者さんのニーズと看護職の知識・技術が合致するよう、さまざまなリソース(人・物・資金)を活用しながらチームを束ね、目標達成に向けて飛躍できるように導くことです。

24時間365日患者さんの一番近くにいるのは看護師であり、医師やコメディカル(注1)と密に連携をとるのも看護師です。私たちは常に患者さんに寄り添い「日々の看護を見つめ、自己を磨き、心温まる看護」を提供していきたいと毎日思っています。

これからの新病院を盛り上げていけるよう、いきいきと働き続けられる環境を整え、地域のみなさまの期待にこたえられる看護が提供できる看護部であり続けていきます。

注1 医師を除く医療従事者のこと。

急性期病棟(3階南病棟)

当病棟は、内科急性期疾患や外科・整形外科・泌尿器科疾患の周術期(注1)、人工呼吸器の管理を必要とする重症患者さんの看護を担っています。

スタッフは看護師と看護補助員で構成され、若いスタッフとベテラン看護師がペアになり、お互いに学び合いながら安全な看護が提供できるように努め、病状が重く不安を抱えて入院される患者さんが、安心して治療を受けられるよう、十分な説明と丁寧な対応を心がけています。

また、患者さんは高齢の方が多く、療養生活の援助も必要になるため、入院とともに退院支援も行っています。治療を終えられた患者さんが元気に退院される姿を見るとうれしくなります。

新病院においても、日々進歩する医療技術に対応できるよう、医師やコメディカルと一緒に定期的に勉強会を実施し、知識と技術のスキルアップに励んでいきます。

注1 急性期と同義で、急性発症した疾病や外傷などを治療する時期。

知識と技術のスキルアップへ



生命の誕生から寄り添っていく



産婦人科・小児科病棟 (3階北病棟)

当病棟は、主に産婦人科と小児科の看護を担っています。昨年度の分娩件数は218件であり、今年7月には延べ8千人目の赤ちゃんが誕生しました。アドバンス助産師(注1)を中心に、妊娠中から患者さんと関わり、出産準備のお話や心のケアを行い、安心してお産ができるよう支援しています。

また、小児科疾患、婦人科手術、抗がん剤治療などを受ける患者さんの看護も担い、医師やコメディカル

とともに院内認定退院支援看護師が中心となり、住み慣れた地域へ安心して退院できるよう支援しています。

一方で、毎年近隣の5つの学校から母性看護学の実習を受け入れたり、市内の小学校へ積極的に出向き、「命の大切さ、生きることの尊さ」を伝えるため、子どもたちに赤ちゃんの誕生や第二次性徴(注2)をお話したりする活動も行っています。

新病院においても生命の誕生から人生の最期まで、患者さんとそのご家族に寄り添う心を大切にし、心あたかな看護の提供に日々取り組んでいきます。

注1 日本助産評価機構が認定した助産に関わる高度な知識と技術を認定された助産師。

注2 思春期に出現する性の特徴で、男性の声変わりや筋骨の発達、女性の乳房の発達や月経の始まりなど。

地域包括ケア病棟(4階病棟)

当病棟は、主に急性期医療が必要となる前の比較的軽症な患者さんの入院治療や、在宅療養中に急性増悪(注1)した患者さんの看護を担っています。ほかにも短期滞在で手術や検査を受ける患者さんなどを受け持つ中で、医師やコメディカルとクリニカルパス(注2)を共有し、患者さんが安心して治療を受けられるよう支援しています。そして、重篤化しないように病状の観察を密に行っています。

退院調整が必要な患者さんに対しては、受け持ち看護師を中心に地域連携室と連携し、地域の医療専門職が集まる合同カンファレンス(注3)を開催するなど退院後の療養環境が整うよう全体的に支援しています。

新病院においても、患者さんやご家族の意向を尊重した看護ができるよう努めていきます。

なお、当病棟は、令和2年12月に新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として指定を受け「コロナ感染病棟」として運用しており、これまでに100人以上の患者さんを受け入れています。

注1 もともとあまり良くなかった病気の状態がさらに悪化すること。

注2 病気の治療や検査に対して、標準化された患者さんのスケジュールを表にまとめたもの。

注3 医師やケアマネージャー(介護支援専門員)、医療従事者などが集まって行う会議。

患者や家族を尊重する看護を



満足できる退院支援を



地域包括ケア病棟(5階病棟)

当病棟は、主に急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者さんの看護を担っています。このほか在宅で療養されている患者さんのレスパイト入院(注1)なども受け入れています。

在宅復帰に向けては、安心して退院していただくため、ADL(注2)が低下しないようにリハビリテーションを行い、退院前には患者家族を含めて、医師、看護師、専従のリハビリセラピスト、医療ソーシャルワーカーが合同カンファレンスを行うなど、地域の医療スタッフとも連携をとっています。

なお、入院期間は、基本的に国の方針である60日以内となるため、私たちは、不安な思いをされている患者さんと一緒に過ごす時間を増やし、患者さんに寄り添った対応ができるよう心がけています。新病院においても、看護師と看護補助員が協力して、患者さんにご家族のQOL(注3)を尊重した退院支援に取り組んでいきます。

注1 家族が病気や事故、冠婚葬祭など社会的事情により自宅介護を担えない場合や介護疲れの一時的軽減を希望する場合に、その支援を目的として在宅患者が短期入院できる制度。

注2 摂食・着脱衣・排泄・移動など、人間の基本的な日常生活動作。

注3 日本語では「生活の質」などと訳され、「生きがい」や「満足度」という意味。

外 来

外来は、12診療科、専門外来、看護外来とがん化学療法室、内視鏡室で構成し、市内および市外から1日に約400人(令和3年度実績)の患者さんが受診されています。病院の窓口として、患者さんに安全・安心の医療をお届けするため、笑顔で丁寧な対応を心がけています。

各診療科の特色にあわせ、質の高い医療と看護を提供するため、専門的な知識を有した看護師を配置しています。がん化学療法には、院内認定の抗がん剤^{アイブイ}Ⅴナス(注1)、放射線科には、造影剤Ⅴナスが駐在しており、安全に治療を受けていただける体制をとっています。内視鏡室では認定消化器内視鏡技師(注2)の資格を有した看護師、産婦人科には助産師を配置し、妊娠や出産・育児など継続した指導やアドバイスを行っています。また、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師と皮膚・排泄ケア認定看護師も活躍しており、脳疾患のリハビリテーションへのアプローチ、床ずれやストーマ(注3)の指導など、専門的な治療に関わっていけるよう体制を整えています。

新病院においても、医師、看護師、臨床工学技士(注4)、視能訓練士(注5)、医師等事務補助員と協働して、患者さん一人ひとりに応じた医療を提供していくために、常に知識と技術の習得に取り組み、スキルアップを図っていき、チーム一丸となり頑張っていきます。

一人ひとりに応じた医療を提供



注1 抗がん剤や放射線検査における薬剤に関する知識を十分に持つ看護師。

注2 医師の監督指導のもと内視鏡を使った業務に携わる人に対して、消化器内視鏡に関する専門的な技能や知識を有する人。

注3 消化管や尿路の疾患などにより、腹部に便または尿を排泄するために造設された排泄口のこと。

注4 医療施設内に設置している医療機器や生命維持装置の保守点検や操作をする医療エンジニア。

注5 眼科で患者さんの視機能の検査や矯正訓練をおこなう目のスペシャリスト。

手術室

周術期看護の質向上をめざす



手術室は、24 時間体制で外科・整形外科・泌尿器科・産婦人科の手術に対応しています。私たちは、手術を受ける患者さんとの信頼関係を築き、手術前から手術後の患者さんとの関わりを大切にすることを目標に掲げ、安全に手術を行うことができるように努力しています。

手術が決定すると、外来で患者さんやご家族と面談を行い、情報収集と手術前の体調管理について説明をしています。そして、手術に対して心配に思われていることや希望されることなどをお聞きし、手術への不安な気持ちを少しでも和らげられるよう支援しています。

また、入院後には患者さんの病室に伺い、安心して手術に望んでいただけるよう援助しています。さらに手術後は、患者さんの状態が落ち着かれた頃に病室を訪問し経過観察をしています。

新病院でも、手術という重大な治療を支援しているという役割を自覚し、スタッフ全員が誇りを持ち、周術期看護の質の向上をめざして取り組んでいきます。

透析センター

透析センターは、現在ベッド数が 30 床で、宍粟市を中心に約 100 人(令和 3 年度実績)の患者さんの血液透析を行っています。木曜日以外は午前・午後の 2 クール体制で透析を行い(日曜休診)、血液透析以外に血液浄化療法(注1)や腹水濃縮還元療法(注2)も行っており、地域医療に貢献しています。

スタッフは、日本透析医学会専門医である医師 2 人、専門知識を持った看護師 15 人、臨床工学技士 4 人で構成し、患者さんが安心して透析を受けられるようにそれぞれが専門性を生かし、共同体制をとっています。

私たちは、患者さんにシャントエコー(注3)を実施し、シャントトラブル(注4)の早期発見、早期対応が出来るよう取り組んでいます。

また、新病院においても、長期透析療法を受けておられる患者さんの生活面にも目を向けながら、安全で安心して透析治療が継続できるように支援していきます。

注1 血液から不要、あるいは有毒な物質を除去する治療方法。

注2 肝硬変や末期癌などにより腹腔(横隔膜よりも下部で腹部の内腔)に水が溜まった患者に対する治療方法。

注3 人工透析の際に動脈と静脈をつなぎ合わせた人工血管の血流や血管状態を検査すること。

注4 人工血管の中に血栓が発生し、かゆみや血管痛、むくみなどが発生しやすい状態。

安全安心の透析治療を



今回は、新病院開院に向けた抱負「コメディカルからのメッセージ」を紹介します。



宍粟総合病院からの別冊です。
広報紙からはずしてご覧ください。



Shiso Municipal Hospital

